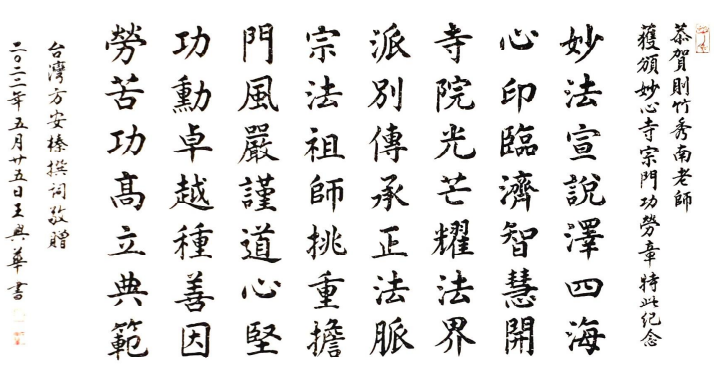
宗門功労章受章祝賀会

コロナウイルスの感染拡大で祝賀会が延期になっていた当会会長曇華室・則竹秀南老大師の「宗門功労章」祝賀会を令和4（2022）年6月13日、滋賀県内のホテルで開催した。

令和3（2021）年4月12日、辞令交付であったが、コロナウイルスの蔓延で授与式が令和3年10月5日、達磨忌半齋後の１０時、開山堂眞前に於いて挙行された。当会会長として２0数年の長きにわたり、世界各国に出向かれること２１６回、日本佛教の敷衍、異宗教徒との親善交流に努められた多大な功績により、妙心寺派管長・小倉宗俊老大師から親授された。

祝賀会には全国各地より38名のIZEFA会員が集まり、会長・曇華室老大師の受章を祝った。



祝宴はまず当会理事である三重県瑞龍寺住職・土方義道師に始まり、妙心寺派で昭和47（1972）年に「宗門功労章」の制度が創設され、最初の受章者、山田無文老大師から数え10人目であると、偉大なる老師の功績を紹介された。次に当会より扁額等の記念品が贈られた。

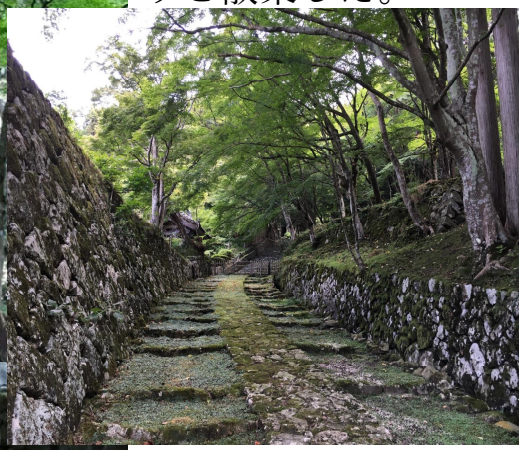
続いて頂相画家、西村俊廣氏も老師の功績を称えた後、乾杯発声の音頭を取り、老大師のさらなる活躍と参会者一同の健勝を願い祝杯を上げた。

祝宴の中、西村画伯夫人・博香さんを中心に、老師作詞、「しあわせの歌」を参加者一同唱和し、それに合わせ手話をもって披露した。

後半には徳島からお越しの正因寺寺庭、奥田昭代さんを先頭に阿波踊りの和ぎやかなパフォーマンスで祝宴を盛り上げた。

最後に当会理事、黄檗万福寺塔頭、法林院住職・林晋堂師の謝辞、老師を囲み一同記念写真を撮りお開きとなった。

翌14日はホテルよりバスで湖東三山（金剛輪寺、西明寺）の一つ、天台宗百済寺を参拝。出発時小雨で心配したが、境内到着時には雨も上がり、古刹をゆっくりと散策した。



参拝後、関西を代表する料亭、八日市の招福楼で昼をとった。石畳のアプローチ、格式高い門や、建屋。会場「七宝の間」では当会会員であり、今年100歳を迎えられた招福楼・中村

老大師の右が中村秀太良氏

秀太良氏が相伴された。白壽迎え、益々ご健勝の翁のお話を伺いながら、参加会員一同美酒に酔い、美味しい料理に舌鼓を打ち箸を進めた。

会食後、名神高速を一路、京都駅までお送りし再会を期し 、今回の祝賀会の旅を締めくくった。